

武蔵野日記

(2 月 23 日 ~ 3 月 22 日)

発行人 社会福祉法人武蔵野
武蔵野市吉祥寺北町 4 - 1 1 - 1 6
0 4 2 2 (5 4) 7 6 6 6

4 月 1 日現在 職員総数 312 名

自立的に考えること

理事長 安藤真洋

「トライ トゥ リメンバー」という歌があります。歌いだしは **Try to remember the kind of September** で、新学期の頃のことを思い出してみようよ、と始まります (9 月はアメリカでは新学期ですね)。若いころ親しんだ歌ですが、改めて、年度の変り目にはいったん基本に立ち返って考えることが大事だと思ひ至ります。すでに各事業においては昨年度の振りかえりをし、新年度の行動計画をつくったところだと思ひますが、サービスの向上や価値を高めるため、そしてまたみなさん自身の成長のためにも、この 4 月から気持ちを新たにしていきたいと思います。

鷺田清一さんは「人は挑まなければ、応えてくれない。うつろに叩けば、うつろにしか応えない」という作家の城山三郎の言葉を紹介し、こう言います。「人生、『不完全燃焼』が延々とつづくこともあれば、『長いリハーサル』ののち一気に燃え尽きることもある。いずれにせよ、挑まなければ限界にも突き当たらない。おのれの限界に歯ざしりすることもない。悔しい思いでそこを乗り越えたと、きっとこれまでより見晴らしのよい場所に立てる。その時苦勞してたどった上り坂が平坦に見えてくる。」(朝日新聞「折々のことば」 2017/01/05)。

私も「不完全燃焼」が続いた時期がありました。満たされぬ思い、自らの非力に沈む日々、長く続く現場の不一致…。こんなに一生懸命やっているのに、何故うまくいかないのかという思いがつのり抑うつ的な気分におちいったこともありました。ただそういう中でも、先駆的な実践をしている方の話を聞こうとする気持ちはあり、そのことで自分自身を見つめ直し、考え方の幅が広がったと思ひます。少し見晴らすことができるようになりました。

インターネットの時代、私たちは膨大な情報の中に生きています。これは知らず知らずのうちに私たちを受け身にしてしています。与えられるものの中で思考し、行動しているのです。しかし私はそれだけで良いのだろうかと不安を感じます。例えば自分の特徴を多面的にとらえること、ものごとを複眼的に考えることなどは大事なことだと思ひますが、それは受け身だけでは得られないと思ひます。ではどうするのか。自分が感じることを手がかりにして、自分の目の前に提示されている情報や枠組みにとらわれずに、自分の言葉で考え、組み立てようとするのが受け身からの脱却には必要ではないかと考えます。

法人にはいくつもの「畑」があります。それぞれの畑でその仕事に習熟することはもちろん大事なことですが、一方で狭くもなり、また他の畑の出来事には鈍感になりがちです。皆さんに求めたいことは、相互の交流にとどまらない社会福祉法人としての一体的な行動の追求です。これは一人ひとりの職員にとってもまた法人にとってもこれまでの殻を破ろうとする営みです。みなさんにはそのような自覚を高めて、大いに切磋琢磨していただきたいと思ひます。そのための自立的な思考や行動が盛んになることを私は願っています。

おかげさまで、ハビットは10周年 ～2つのミッションとともに～

地域療育相談室ハビット 平沼勝也

突然ですが、皆さんはハビットの事業にどんなイメージをお持ちでしょうか。開設時から事業の形や実施方法は変わっても、ハビットには変わらない2つのミッションがあります。

その1つ目は、職員が発達に心配のあるお子さんとご家族のご相談を伺い、「お子さんとご家族が地域で安心して生活・子育てができるように支援すること」です。

発達の心配は、運動発達に関すること（ハイハイしない、手先が不器用等）、行動に関すること（おちつきがない、こだわりが強い等）、ことばや聞こえに関すること（ことばが遅い、ことばの発音がはっきりしない等）、支援事業所の利用に関すること等様々です。

このようなご相談を伺いながら、お子さんの特徴をご家族と確認していき、それぞれのご家庭に適した対応方法を一緒に検討します。相談は必ずしも個別対応だけではなく、お子さんの特徴や対応方法を確認できる集団活動も相談の一環と考えています。近年は年間で200人以上の新規相談があります。児童発達支援事業などの支援事業所が増え、利用に積極的なご家族の方も増えてきました。支援事業所で継続して療育支援を受けたり、ご家族が日頃からの関わり方に気を付ける、幼稚園など所属する集団の先生と連携するなど、対応方法のバリエーションも様々です。

このように直接相談に応じるだけでは不十分で、同時にこの地域に「足りないもの」や、「あるとより良いもの」を形にして事業化し展開してきました。これが2つ目のミッションである「必要な事業をつくること」です。

たとえば、「就園先選びはどうしたら良い？」というお声を受けて、「先輩保護者のお話を聞く会」を始めました。幼稚園や保育園、児童発達支援事業に毎日通う方もいればそれらを併用する方など様々なので、それぞれの保護者の方にお話しいただいています。そしてそれを聞いた方に翌年お話しいただくという形で継続しています。他にも、「障害のあるきょうだいを友達に紹介する時どうしてる？」との声から「きょうだい交流会」を、「障害のある子を連れて集まれる場所がない」「保護者同士で話をもっとしたい」から「部屋貸し事業」や「保護者懇談会」というように事業化してきました。

いずれも事業化のスタートは利用者の生の声です。支援者の当然の態度として相談の中で誠実に丁寧に話を伺い、一緒に考えます。その積み重ねが「困っていることを伝えてみよう」と思っただけの関係につながります。大切なのはその困りを個人の問題と捉えずにそこから普遍的な地域の課題を見つけ、より多くの方に役立つ形にすることです。仕組みを作って事業化し継続することで、次の世代の困りを感じている方への支援にもなります。その仕組みが生活しやすい地域づくりの一助となるかもしれません。

もちろんこのような取り組みはハビットの職員だけではできません。関係機関や地域の方々、利用者の皆様に支えていただけてきた道程です。改めて感謝申し上げます。

今後ともハビットをどうぞよろしく願いいたします。



3月 7日 (火)

メインは補装具相談ですが…

すばるでは、自立訓練などの他に、障害のある方に対して下肢装具や車椅子などの補装具相談を、リハビリ専門職が行っています。この日は、以前すばるの自立訓練を利用されていたSさんが、下肢装具の相談にいらっしゃいました。現在、作業所に自力通所されているのですが、作業所からの帰り道にすばるに立ち寄っていただきました。こうやって、すばるに来ていただくことで、補装具のことだけでなく、顔見知りの職員と近況を語り、現在の身体の様子や生活の様子を知ることができます。補装具相談は、すばる卒業後のご利用者の状況を把握できる機会のひとつにもなっています。

(荒幡 英子)

3月 8日 (水)

さくらもちマグネット

午後の趣味活動では共同作品制作や季節を感じる小物作りをする活動があります。本日の作品は“さくらもちマグネット”。「指先が思うように動かない」「細かい物が見えない」といつもお話される方も針仕事というと長年の経験と身につけている感覚で器用に手早く仕上げてください。針穴に糸を通すのもあつという間です！皆さんで取り組んでいると器用な方が周りの方をさりげなく手伝う姿も見られます。最近ご自宅では手作業をする機会が減ってしまった方々がいきいきと活躍され、また作品を通してお仲間とのおしゃべりも弾んでいます。次はどんな素材、どんな色で何を作りましょうか…皆さんと相談しながら活動を進めています。

(賀川 真美)

3月13日 (月)

メモ取りは仕事の基本！

いんくるの就労トレーニング、一週間の始まりである月曜日午前中は「メモの取り方」でスタートします。

メモ取りは、職場で必ず求められるスキルであることから、これから就職を目指す皆様に、なぜメモ取りが必要なのかの意義やメモ取りのポイントを実戦形式で学んでいただきます。

職員が読み上げる事項をすばやく正確に書きおこすというかなりタフな内容となっています。

ただし、参加されている方々にとっては、まだ今週は始まったばかり、皆様の一週週のエネルギーを消耗し過ぎないように注意も払っています。

(吉田 友一)

生活リハビリサポートすばる



ゆとりえデイサービス



ジョブアシストいんくる



3月14日(火)

納会

第二活動室において今年度1年間を振り返る「納会」を開催しました。活動を通じた取り組みの振り返り、確認と理解をより深めていくことを目的とし、昨年度から始めています。

手作りの焼き立てクッキーと飲み物を準備リラックスした中で、仲間同士の頑張りをスライドを見ながら進めていくのですが、画像を見入る人、拍手をする人、取り組んだことを発表する人等様々な形で伝えていたのがとても印象的でした。

普段とは違う雰囲気を醸し出す利用者の他の一面を知ることができた納会でした。

(佐藤 誠)

ワークセンター大地



3月16日(木)

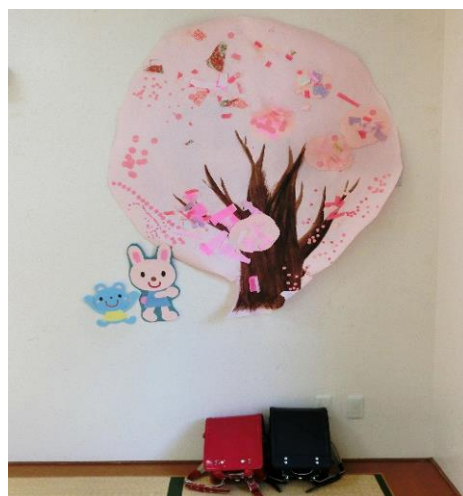
もうすぐ、卒園式

この時期になると、朝のおあつまりでは「1年生になったら」や「思い出のアルバム」などの歌を歌うようになります。制作では、春のお花をモチーフに壁面の装飾を作ります。今年は桜の花をみんなで作りました。小学校に向けて期待が膨らむ年長さんは、音楽あそびの時間にランドセルを背負い、卒園式で歌う出し物の練習を始めています。

間もなく迎える卒園式では8名の年長さんが卒園します。一人ひとりの確かな成長を感じ、小学校へと送り出します。そして、4月には9名の新入園児を迎え入れて、計16名で賑やかに新年度をスタートします。

(小山 和子)

こども発達支援室ウイズ



事務局より 4月の予定

3日(月) 辞令交付式兼入社式、施設長会議
14日(金) 職員全体説明会

22日(土) 施設長・係長研修
28日(金) 経営企画会議

<編集後記>

暖かくなったかと思いきや寒くなったり雨が降ったりと、春を感じる要素が増えてきていますね。お忙しい中、日記の記事をご担当して下さった方々、本当にありがとうございました！
新年度から新たに新社会人になる方々も一緒にがんばっていただけると思っております。

武蔵野福祉作業所 菊池